

Coastal and Oceanic Research Group

(内山研究室)

<http://coast.dce.kobe-u.ac.jp/>

指導教員：

内山雄介准教授 (1W-308)
uchiyaama@harbor.kobe-u.ac.jp

学生：M2 … 2名

M1 … 3名

早期配属生…1名

■概要

一言で言うと「海」の研究室です。世界標準の領域海洋循環モデル(ROMS)という強力なツールを駆使して、世界最高水準の海洋モデリングを行っています。海岸工学、地球物理学、数値流体力学などの知識をベースに海岸や海洋で生じる現象に対し科学的にアプローチし、各種現象の理解を深め、海洋を中心とした地球環境問題や沿岸海域環境・防災問題などの工学的課題の解決に向けた基礎および応用研究を行っています。

■平成25年度の研究テーマの例 ※平成25年度は以下のようなテーマを考えていますが、独自のテーマも歓迎します

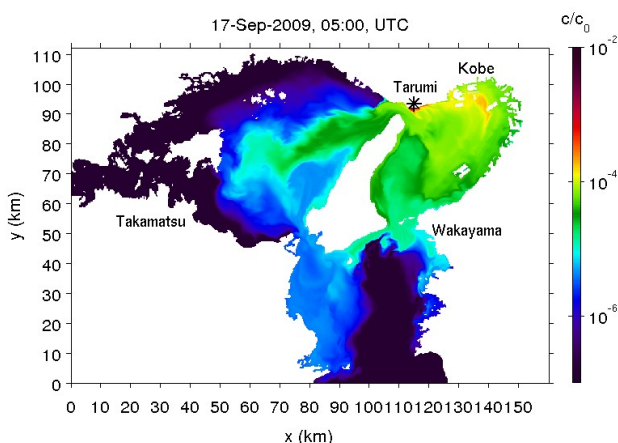
- 太平洋沿岸海域におけるプランクトン・物質循環に関する気候学的研究
- 瀬戸内海全域を対象とした広域流動と海洋生物コネクティビティ
- 非定常離岸流の3次元構造と波-流れ相互作用
- 大阪湾における河川プリュームの動態と内湾環境形成機構
- Xバンドマイクロ波レーダを用いたリアルタイム海流・波浪推算技術の開発
- 沿岸環境アセスメント技術の高度化に向けたGIS-GPVデータに基づく河川流入量のリアルタイム評価に関する研究

■求められる人材・研究の進め方

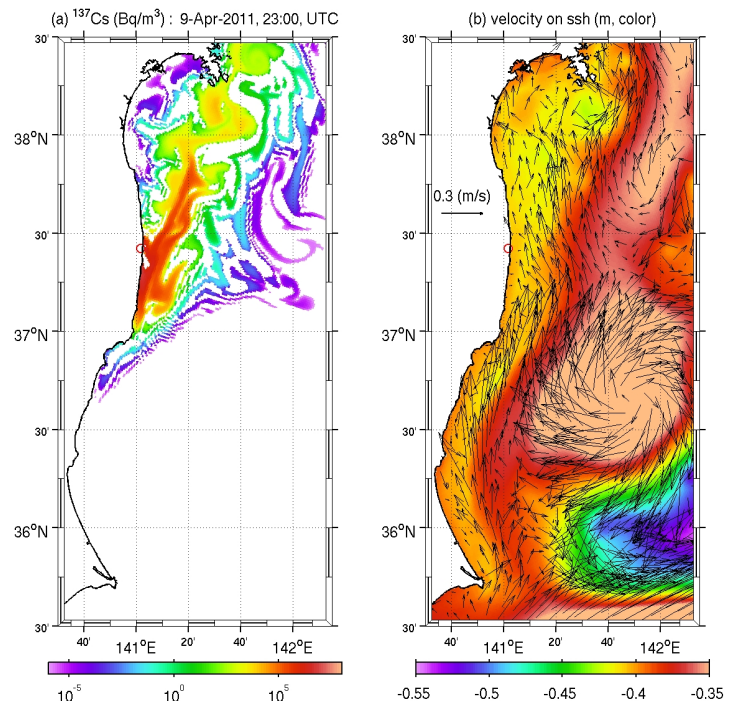
第一に海が好きな人、地球科学、環境問題、防災減災、シミュレーション、流体力学に興味のある人は大歓迎です。多くの時間は机やコンピュータに向かったデスクワークになりますので、コンピュータやシミュレーションに興味のある人が望ましいでしょう。また、プレゼン・コミュニケーションスキルを高めたい人、英語力をブラッシュアップしたい人、検討の価値あります。さらに、今まで一所懸命努力してきた人、部活やバイトや恋愛などで学部の学業を疎かにしてきたけれどもこれではいけないと思っている人、我々の研究室ではそういう意欲のある人たちを歓迎します。研究に必要な知識やスキルは教員と大学院生が親切丁寧に指導しますので全く心配はありません。無理なく研究を進めていくことができますので安心してください。指導教員とコミュニケーションをとりながら、自由な雰囲気の中で各自のペースで研究を進めていきます。週に1度全体ミーティングを行い、最新の研究動向の報告・各自の研究の進捗状況報告を毎週交代で行っています(発表は月1回程度)。

■学外での発表

2012年は国際会議などでの英語発表が15件(所属学生による発表はそのうち8件)、英語ジャーナル論文を2編発表しました。国内学会での発表も12件(うち所属学生発表は10件)ありました。英語力が十分だと認められると海外での学会参加の機会もあります。2012年はサンフランシスコに修士の学生が2名渡航しました。また、国内学会参加のため筑波、横浜、広島、高知などに行きました。2013年は、海外はインドネシアとハワイ、国内は東京、福岡、札幌などを予定しています。研究発表に伴う経費は海外・国内を問わず全て研究室が負担します。



神戸・垂水処理場からの放出下水処理水分



福島第一原発から漏洩したセシウム濃度分布(左)
海面高度と流速ベクトル(右)

制作：神吉・上平 (M1)

■訪問可能日時

内山 (1W-308, 予約不要)

3/18 (月), 3/19 (火)：午前9:00～12:30

3/25 (月), 3/27 (水), 3/28 (木)：午後1:30～5:00

学生部屋 (1W-205, 予約不要)

3/25 (月), 3/27 (水), 3/28 (木)：午後1:30～5:00 (必ず対応)

3/18 (月)～3/22 (金)：随時対応